

# 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 平成21年度定期総会

琵琶湖・淀川流域圏連携交流会



## 概要

日時：平成21年4月26日（日）14：00～16：30

場所：コラボしが21

参加者：23名

## メインプログラム

(第1部)	
14：00	開 会 代表の挨拶
14：05	総 会 議長選出 第1号議案 平成20年度事業報告 第2号議案 平成20年度決算報告 第3号議案 平成21年度事業計画案 第4号議案 平成21年度事業予算計画案 第5号議案 平成21年度役員案 総会閉会
14：35	休 憩
(第2部)	
14：45	脇田健一教授（龍谷大学） 基調講演 「地域に根を下ろした活動をおこなうには」
15：45	ワークショップ
16：30	閉 会

「平成21年度定期総会」が23名の参加により開催されました。第1部の通常総会では、平成20年度の事業報告と決算報告、平成21年度の事業計画案、予算計画案及び役員選出について審議されました。

第2部は、「地域に根を下ろした活動をおこなうには」をテーマに、龍谷大学の脇田教授による講演が行われました。NPO関係者がどのように地域と関わり、地域の人々を巻き込みながら活動に取り組んでいくために大切なことは何かを、教授ご自身の経験を元に、分かりやすくお話していただきました。

## 第1部(通常総会)

### ◇開会・代表の挨拶

当交流会事務局長である横山氏の司会のもと開会し、まず、代表幹事の野田氏より挨拶がおこなわれました。

### ◇議案審議

議長に幹事の山村氏を選出し、総会の成立状況が発表された後、第1～5号議案の審議に移りました。

#### ・第1号議案(報告:田中氏)

平成20年度の事業として、2種類の冊子作成やホームページ作成などの形に残る事業を行ったこと、地域交流会の開催、韓国の団体との国際交流、そのほか協議会とともに「外来種を考える会」の取組みを開始したことが報告されました。また、自分たちの得意分野を活かし、自然観察会やジュニアリバースクールなどの委託事業を請負い、資金面で会を補いながら新しい展開に向けて取り組んでいることが報告され、承認されました。

#### ・第2号議案(報告:丸井氏)

収入の部が、委託事業(3件)受託と助成金受給により予算額と実績との差として出ていること、支出の部は、冊子作成・地域交流会等に助成金を執行し、委託事業についても委託事業ごとに必要経費を執行したこと、今年度の差額79,686円については翌年に繰越しとすることが報告され、承認されました。(監査報告については、監査役が欠席のため代理として事務局より報告)4月16日に、監査役である青木氏・中馬氏に承認いただいた旨が報告されました。

#### ・第3・4号議案(報告:田中氏・丸井氏)

今年度の予定事業として、協議会の年次報告会において活動報告及びパネルディカッションへの参加、水都大阪2009の社会実験プログラム参加、外来種対策(時期・詳細は未定)、地域交流活動、ええはがき展、講師登録事業、国際交流活動、委託事業への取組みが発表され、それにとともなう予算計画が提案され、承認されました。

#### ・第5号議案(報告:小坂氏)

平成21年度の役員を選任について、2名の交代と1名の増員があった旨が報告され、以下の幹事候補者が提案され、承認されました。

### 平成21年度 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 役員名簿

* 代表幹事	石山郁慧氏、鈴木康久氏、中西崇雄氏、野田晃弘氏
* 事務局長	横山 葵氏
* 会計	田中俊夫氏、丸井晶子氏
* 幹事	小坂育子氏 丹波喜徳氏(前幹事、丹波道明氏と交代) 中本二郎氏 仁枝 洋氏(新規増員) 橋本夏次氏 村松光男氏 山村武正氏 吉田静夫氏(前幹事、小丸和恵氏と交代)
* 会計監査	青木治男氏、平野圭祐氏

## ◇質疑応答・指摘事項

- ・ 詳細な事業報告が不足している。  
→(交流会返答) 可能な範囲で、ML配信・HPでの情報公開に取り組んでいきたい。
- ・ 交流会の目指す形が明確でない(連携といつつ、同じような取組みをさまざまな地域で繰り返すなど情報共有がはかられていない)。
- ・ (総会における事業報告等を含め)会の運営が粗雑。
- ・ 幹事の立候補受付や選出について会員への周知が不足している。  
→(交流会返答) 昨年度は4月時点で、DM・MLで各会員にお知らせしたが、受付締切の1月付近には改めて周知はしていない。今後、改善していきたい。
- ・ 各事業に関して担当理事制にする等、活動性豊かになるような組織作りを検討してはどうか。
- ・ プラットホーム的な機能面での会のあり方を考える(抜本的な組織のあり方・会の運営について考える)時期にきているのではないか。

## 総会のようす



## 第2部

### ◇基調講演「地域に根を下ろした活動をおこなうには」(龍谷大学 脇田教授)

#### <新しいリーダーシップの形～“呼びかけ屋さん”と“繋ぎ屋さん”>

(教授の専門である環境社会学・地域社会学の視点から、イカナゴの釘煮・琵琶湖のゴミを集めるためのボランティア・“ボランティアはトロクサイ”と考えていた元銀行マン・閉校小学校など、みんなが自発的に参加しながら、人と人の繋がり、地域のつながりが生まれている活動例を紹介された上で)

人は、地域づくりにおいて、公共的領域の幸せ(人との関係のなかで得られる満足感・充足感)を得ることができます。地域づくりには、何かを媒介として人と人が繋がり、そこで満足感が得られるような活動が重要であり、そのような活動を進めるためには、周囲の人を巻き込んでいけるよう外部に呼びかける人“呼びかけ屋さん”、点として活動している人たちを線として繋いでいく人“繋ぎ屋さん”の存在が必要です。また、事業を行う際には、参加している人が“自分がやっている”“この事業は自分たちのもの”という意識をもてるような“過程を各自が所有できる事業”であるべきです。自分が確実に参加しているという意識を持つことで、参加者ひとりひとりに主体性と責任が生まれます。

同時に参加者たちを影から支えていく「自分が黒子になる」というリーダーシップが必要です。

### <信頼・協働・裏切らないということ>

地域づくりにおいて大切なことは、信頼・協働・裏切らないということ(互酬性の関係)であり、これらを念頭においてネットワークづくりを行うことが重要です。実際に、このようなネットワークをもった地域は強く、活動に参加している人々はネットワークに入っているという幸福感を得られます。

また、エンパワーメント(人々が知識・情報へのアクセス、意思決定の面で力をつけること)やネットワーク構築など潜在化された力を、お互いに引き出しあい評価しあいながら、問題解決に向けて社会的力や能力を高められるような活動展開が必要です。

### <幸せの尺度を決めて共有する>

私は、活動の草の根をどう支えていくかを考える時、地域の中で私も含めた私たちの幸せの尺度(目標像)を決めていければいいのではないかと考えます。なぜなら、参加者が幸せを共有できれば、みんなが主体的に取り組むことができるからです。住民参画が行政施策のアリバイとならないようにするためにも、人々の主体性を“共有できるもの”として活動を作っていくことが大切です。活動を通し、知らない人と関係ができた、有効性感覚の醸成(“やればできたね”という感覚を育てる)がされれば、発見・解決・共有のプロセスが良いスパイラルにはまっていきます。

私自身は、活動のネットワークを自分の足元からどう広げて繋いでいくのかを考え、色々な地域で取り組みを行ったり手伝いをしています。そして、そこで生まれる成果が、自分自身の次の取り組みへの勇気になり、共に活動した人と気持ちをシェア(共有)することにつながっています。

### 基調講演のようす



### 交代する幹事より挨拶

#### ◇丹波道明氏

この会に入って一番良かったことは、やはり皆さんと知り合いになれたことです。なかでも、幹事の山村さんがおっしゃった「木津川のどっかの支流で草むしりなどしていて、もうやめようかなと思う時も、下流で頑張っている人の顔がちらついて、もっともっときれいな川にしないといけないと思う。これが、この会(BYnet)を作った値打ちだ」という言葉が心に残っています。私も、その言葉の通りだと思います。幹事の役は退きますが、今後も地元の水環境・葦環境の保全に取り組んでいきたいと思っておりますので、これからも総会やそういった場には顔を出させていただいて、またみなさんと意見交換ができれば嬉しいと思っています。本当にありがとうございました。私の後輩も含めて、是非、今後ともよろしくお願い申し上げます。今日のディスカッションを糧にして、よりいっそう大きな立派な会に成長していただくことを願っています。

#### ◇小丸和恵氏

私も、皆さんとお知り合いになれて良かったです。発足当時は、会にも出席させていただいていたのですが、状況の変化に伴って最近ではなかなか平日の会合に出席できておらず、心痛めておりました。(所属している)“子どもと川とまちのフォーラム”は以前、嘉田知事が代表を務めておられた団体で今も細々と活動を続けており、こちらの活動には今後もボランティアとして支えていきたいと思っていますので、また皆さんとも連携させていただきながら、お付き合いを続けさせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。